

1. アモキシシリン経口
 2. セフカペン（フロモックス）経口
 3. フォスフォマイシン静注
 4. メロペネム静注
 5. バンコマイシン静注
 6. わからない
- V) 抗菌薬投与と乳酸化リンゲル液の大量輸液にても低血圧が続く敗血症性ショック
1. ヒトアルブミン製剤静注
 2. フロセミド静注
 3. ヘタスターチ製剤静注
 4. ドブタミン静注
 5. ドパミン静注
 6. わからない
- W) 急性心筋梗塞で低血圧 80/40 mmHg
1. ヒトアルブミン製剤静注
 2. ヘタスターチ製剤静注
 3. ドブタミン静注
 4. ドパミン静注
 5. フロセミド静注
 6. わからない
- X) COPD 急性増悪の CO₂ ナルコーシスによる傾眠傾向のある低酸素（SpO₂ 88%）
1. 低流量酸素（経鼻カニューラ）
 2. 高流量酸素（リザーバー酸素マスク）
 3. ジアゼパム経口
 4. テオフィリン静注
 5. ミダゾラム静注
 6. わからない
- Y) 塩酸モルヒネ中毒による呼吸抑制
1. フルマゼニル（アネキセート）静注
 2. ナロクソン静注
 3. ドキサプラム（ドプラム）静注
 4. ミダゾラム静注
 5. ペンタゾシン（ソセゴン）静注
 6. わからない
- Z) 高血圧・頻脈を伴う急性大動脈解離（Stanford type B）
1. ニフェジピン舌下
 2. ニカルジピン静注
 3. プロプラノロール静注
 4. ドブタミン静注
 5. ドパミン静注
 6. わからない

(2) 救急や夜間外来で診療できるよう、あなたの勤務時間等の環境が調整できた場合を想像してください。下記のそれぞれの場面で、どの程度の範囲の診療を担当できそうでしょうか。あなたの実感に近い項目を選択肢のなかから1つだけお選びください。

- A) 日中の一次救急（直接来院した、診断がついていない急患への対応）
1. ほとんどすべての患者に応急的な対応ができる
 2. 半分以上の患者に応急的な対応ができる
 3. 一部の患者に応急的な対応ができる
 4. ほとんど対応できない
- B) 日中の二次救急（救急車で搬送された、診断がついていない急患への対応）
1. ほとんどすべての患者に応急的な対応ができる
 2. 半分以上の患者に応急的な対応ができる
 3. 一部の患者に応急的な対応ができる
 4. ほとんど対応できない
- C) 夜間の一次救急（直接来院した、診断がついていない急患への対応）
1. ほとんどすべての患者に応急的な対応ができる
 2. 半分以上の患者に応急的な対応ができる
 3. 一部の患者に応急的な対応ができる
 4. ほとんど対応できない
- D) 夜間の二次救急（救急車で搬送された、診断がついていない急患への対応）
1. ほとんどすべての患者に応急的な対応ができる
 2. 半分以上の患者に応急的な対応ができる
 3. 一部の患者に応急的な対応ができる
 4. ほとんど対応できない

(3) 先生ご自身についてお教えてください。

性 別	1 男性	2 女性
年 齢	歳	
出身大学	大学	
卒後年数	現在	年目
当直回数	月に	回
一般救急	月に	回
現在の勤務形態（○で囲む）	公的病院 大学病院	民間病院 開業

(4) 卒後2年間の臨床研修について

問1 卒業後2年間の臨床研修の修了の有無

1 修了した 2 していない

問2 あなたの研修プログラムを管理していた病院の名称（管理型病院または大学病院名のみ記入）

--

問3 研修プログラムを管理していた病院の所在地 <回答は1つ>

- | | | | | |
|---------|----------|----------|---------|----------|
| 1. 北海道 | 11. 埼玉県 | 21. 岐阜県 | 31. 鳥取県 | 41. 佐賀県 |
| 2. 青森 | 12. 千葉県 | 22. 静岡県 | 32. 島根県 | 42. 長崎県 |
| 3. 岩手県 | 13. 東京都 | 23. 愛知県 | 33. 岡山県 | 43. 熊本県 |
| 4. 宮城県 | 14. 神奈川県 | 24. 三重県 | 34. 広島県 | 44. 大分県 |
| 5. 秋田県 | 15. 新潟県 | 25. 滋賀県 | 35. 山口県 | 45. 宮崎県 |
| 6. 山形県 | 16. 富山県 | 26. 京都府 | 36. 徳島県 | 46. 鹿児島県 |
| 7. 福島県 | 17. 石川県 | 27. 大阪府 | 37. 香川県 | 47. 沖縄県 |
| 8. 茨城県 | 18. 福井県 | 28. 兵庫県 | 38. 愛媛県 | |
| 9. 栃木県 | 19. 山梨県 | 29. 奈良県 | 39. 高知県 | |
| 10. 群馬県 | 20. 長野県 | 30. 和歌山県 | 40. 福岡県 | |

問4 研修プログラムを管理していた病院の規模（病床数） <回答は1つ>

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 100床未満 | 4. 500床以上700床未満 |
| 2. 100床以上300床未満 | 5. 700床以上900床未満 |
| 3. 300床以上500床未満 | 6. 900床以上 |

問5 研修プログラムを管理した病院が属する市町村区の規模（人口） <回答は1つ>

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 1万人未満 | 4. 10万人以上50万人未満 |
| 2. 1万人以上5万人未満 | 5. 50万人以上100万人未満 |
| 3. 5万人以上10万人未満 | 6. 100万人以上 |

問6 現在専門としている診療科を下記の中からお答えください。 <1～33から回答は1つ>

- | | | |
|-----------|------------|----------------------|
| 1. 内科 | 12. 整形外科 | 23. 泌尿器科 |
| 2. 心療内科 | 13. 形成外科 | 24. リハビリテーション(理学療法)科 |
| 3. 呼吸器科 | 14. 美容外科 | 25. 放射線科 |
| 4. 消化器科 | 15. 脳神経外科 | 26. 麻酔科 |
| 5. 循環器科 | 16. 呼吸器外科 | 27. 救命救急 |
| 6. アレルギー科 | 17. 心臓血管外科 | 28. 総合診療科 |
| 7. リウマチ科 | 18. 小児外科 | 29. 病理 |
| 8. 小児科 | 19. 産婦人科 | 30. 緩和ケア部門 |
| 9. 精神科 | 20. 眼科 | 31. 医療行政職 |
| 10. 神経内科 | 21. 耳鼻咽喉科 | 32. 基礎系 |
| 11. 外科 | 22. 皮膚科 | 33. その他 () |

アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

(SA) Q1-1. ベータ刺激剤ネブライザーで軽快していない気管支喘息発作 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	テオフィリン静注	63	30.3	30.3
2	エピネフリン静注	9	4.3	4.3
3	メチルプレドニゾン静注	123	59.1	59.1
4	ロイコトリエン阻害薬経口	1	0.5	0.5
5	インデラール静注	0	0.0	0.0
6	薬剤や治療法はわからない	12	5.8	5.8
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-2. 発作性心房細動をきたしたWPW症候群 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ジゴキシン静注	20	9.6	9.6
2	一時的対外式ペースング	11	5.3	5.3
3	ワソラン静注	61	29.3	29.3
4	プロプラノロール静注	4	1.9	1.9
5	ジソピラミド静注	46	22.1	22.1
6	薬剤や治療法はわからない	66	31.7	31.7
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-3. 活動性出血を伴う胃十二指腸潰瘍 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ファモチジン静注	31	14.9	14.9
2	トランサミン静注	30	14.4	14.4
3	アスピリン経口	0	0.0	0.0
4	オメプラゾール静注	121	58.2	58.2
5	ピレンゼピン静注	2	1.0	1.0
6	薬剤や治療法はわからない	24	11.5	11.5
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-4. 尿中肺炎球菌抗原検査陽性の市中肺炎 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	セフトリアキソン静注	140	67.3	67.3
2	メロペネム静注	29	13.9	13.9
3	バンコマイシン静注	2	1.0	1.0
4	オセルタミビル経口	1	0.5	0.5
5	トブラマイシン静注	2	1.0	1.0
6	薬剤や治療法はわからない	34	16.3	16.3
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-5. 良性発作性頭位めまい症 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	重炭酸ナトリウム(メイロン)静注	166	79.8	79.8
2	エピネフリン静注	1	0.5	0.5
3	ジフェンヒドラミン筋注	6	2.9	2.9
4	アデノシン三リン酸二ナトリウム(ATP製剤)経口	20	9.6	9.6
5	グリセロール静注	2	1.0	1.0
6	薬剤や治療法はわからない	13	6.3	6.3
	NA	0	0.0	

サンプル数(%ベース)	208	100.0	208
-------------	-----	-------	-----

(SA) Q1-6. 脱水(腎前性腎不全)による乏尿を呈する熱傷 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ヒトアルブミン製剤静注	9	4.3	4.3
2	ヘタスターチ(ヘスパンダー)静注	13	6.3	6.3
3	乳酸加リンゲル液静注	160	76.9	76.9
4	新鮮凍結血漿輸血	1	0.5	0.5
5	フロセミド静注	1	0.5	0.5
6	薬剤や治療法はわからない	24	11.5	11.5
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-7. ウイルス性急性上気道炎 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	アセトアミノフェン経口	154	74.0	74.0
2	アシクロビル静注	5	2.4	2.4
3	ノルフロキサシン経口	11	5.3	5.3
4	プレドニゾロン経口	1	0.5	0.5
5	クリンダマイシン経口	9	4.3	4.3
6	薬剤や治療法はわからない	28	13.5	13.5
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-8. ベンゾジアゼピン系薬大量服用後6時間後に搬送された急性薬物中毒による深昏睡 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	プラリドキシム(PAM)静注	8	3.8	3.8
2	透析療法	12	5.8	5.8
3	胃洗浄	44	21.2	21.2
4	気管挿管	109	52.4	52.4
5	ミダゾラム静注	7	3.4	3.4
6	薬剤や治療法はわからない	28	13.5	13.5
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-9. ジアゼパム静注でコントロールできないけいれん重積発作 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	メロペネム静注	0	0.0	0.0
2	フェニトイン静注	90	43.3	43.3
3	フェノバルビタール筋注	65	31.3	31.3
4	パנקロニウム静注	7	3.4	3.4
5	ベクロニウム静注	10	4.8	4.8
6	薬剤や治療法はわからない	36	17.3	17.3
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-10. 蜂アレルギーによるアナフィラキシーショック (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	クロルフェニラミン静注	2	1.0	1.0
2	ニフェジピン経口	3	1.4	1.4
3	強力ネオ・ミノファーゲンC静注	8	3.8	3.8
4	エピネフリン筋注	187	89.9	89.9
5	局所ステロイド軟膏	2	1.0	1.0

6	薬剤や治療法はわからない	6	2.9	2.9
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-11. 急性左心不全を伴う高血圧 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ジルチアゼム静注	28	13.5	13.5
2	ドパミン静注	13	6.3	6.3
3	ニトログリセリン静注	86	41.3	41.3
4	ニフェジピン舌下	10	4.8	4.8
5	ドブタミン静注	15	7.2	7.2
6	薬剤や治療法はわからない	56	26.9	26.9
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-12. 市中発症の発熱・下痢を呈する細菌性腸炎 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	フォスфоマイシン静注	63	30.3	30.3
2	クリンダマイシン静注	15	7.2	7.2
3	バンコマイシン経口	3	1.4	1.4
4	シプロフロキサシン経口	89	42.8	42.8
5	センノシド経口	1	0.5	0.5
6	薬剤や治療法はわからない	37	17.8	17.8
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-13. ベル麻痺 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	プレドニゾン経口	114	54.8	54.8
2	グリセロール静注	6	2.9	2.9
3	バラシクロビル経口	2	1.0	1.0
4	混合ガス(酸素+2酸化炭素)吸入	0	0.0	0.0
5	アシクロビル経口	22	10.6	10.6
6	薬剤や治療法はわからない	64	30.8	30.8
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-14. 肺塞栓症を伴わない急性深部静脈血栓症 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	トランサミン静注	4	1.9	1.9
2	アスピリン経口	18	8.7	8.7
3	ヘパリン静注	131	63.0	63.0
4	弾性ストッキング装着	19	9.1	9.1
5	tPA静注	12	5.8	5.8
6	薬剤や治療法はわからない	24	11.5	11.5
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-15. 慢性腎不全(Cr3.0mg/dl)を伴う急性痛風発作 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ロキソニン経口	64	30.8	30.8
2	アロプリノール経口	26	12.5	12.5
3	ユリノーム経口	11	5.3	5.3
4	プレドニゾン経口	32	15.4	15.4

5	モルヒネ静注	15	7.2	7.2
6	薬剤や治療法はわからない	60	28.8	28.8
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-16. 無脈性電気活動 Pulseless electrical activity(PEA) (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	電氣的除細動	30	14.4	14.4
2	フロセミド静注	2	1.0	1.0
3	同期下カルディオバージョン	7	3.4	3.4
4	エピネフリン静注	131	63.0	63.0
5	ドブタミン静注	0	0.0	0.0
6	薬剤や治療法はわからない	38	18.3	18.3
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-17. 癒着性小腸閉塞による嘔吐 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	経鼻胃管の留置	160	76.9	76.9
2	スコボラミン(ブスコパン)静注	14	6.7	6.7
3	メクロプラミド(プリンペラン)静注	5	2.4	2.4
4	ペンタゾシン(ソセゴン)静注	2	1.0	1.0
5	モルヒネ静注	1	0.5	0.5
6	薬剤や治療法はわからない	26	12.5	12.5
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-18. 免疫不全疾患の無い若年者における急性ウイルス性脳炎 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	リファンピン経口	0	0.0	0.0
2	グリセオール静注	46	22.1	22.1
3	セフトリアキソン静注	3	1.4	1.4
4	アシクロビル静注	110	52.9	52.9
5	オセルタミビル経口	1	0.5	0.5
6	薬剤や治療法はわからない	48	23.1	23.1
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-19. 急性心筋梗塞に伴う無脈性心室頻拍 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	電氣的除細動	117	56.3	56.3
2	ドブタミン静注	1	0.5	0.5
3	同期下カルディオバージョン	21	10.1	10.1
4	エピネフリン静注	13	6.3	6.3
5	塩酸リドカイン静注	18	8.7	8.7
6	薬剤や治療法はわからない	38	18.3	18.3
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-20. 透析患者における高カリウム血症(7.0mEq/L)で徐脈(50/min) (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	硫酸アトロピン静注	11	5.3	5.3
2	ノルアドレナリン静注	2	1.0	1.0
3	グルコン酸カルシウム(カルチコール)静注	143	68.8	68.8

4	フロセミド静注	8	3.8	3.8
5	イソプロテレノール静注	2	1.0	1.0
6	薬剤や治療法はわからない	42	20.2	20.2
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-21. 基礎疾患の無い若い女性における初回の急性膀胱炎 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	アモキシシリン経口	54	26.0	26.0
2	セフカペン(フロモックス)経口	133	63.9	63.9
3	fosfマイシン静注	3	1.4	1.4
4	メロペネム静注	4	1.9	1.9
5	バンコマイシン静注	1	0.5	0.5
6	薬剤や治療法はわからない	13	6.3	6.3
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-22. 抗菌薬投与と乳酸加リンゲル液の大量輸液にても低血圧が続く敗血症性ショック (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ヒトアルブミン製剤静注	20	9.6	9.6
2	フロセミド静注	1	0.5	0.5
3	ヘタスターチ製剤静注	9	4.3	4.3
4	ドブタミン静注	14	6.7	6.7
5	ドパミン静注	137	65.9	65.9
6	薬剤や治療法はわからない	27	13.0	13.0
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-23. 急性心筋梗塞で低血圧 80/40mmHg (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ヒトアルブミン製剤静注	5	2.4	2.4
2	ヘタスターチ製剤静注	5	2.4	2.4
3	ドブタミン静注	44	21.2	21.2
4	ドパミン静注	97	46.6	46.6
5	フロセミド静注	2	1.0	1.0
6	薬剤や治療法はわからない	55	26.4	26.4
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-24. COPD急性増悪のCO2ナルコーシスによる傾眠傾向のある低酸素(SpO2が88%) (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	低流量酸素(経鼻カニューラ)	159	76.4	76.4
2	高流量酸素(リザーバー酸素マスク)	13	6.3	6.3
3	ジアゼパム経口	0	0.0	0.0
4	テオフィリン静注	9	4.3	4.3
5	ミダゾラム静注	0	0.0	0.0
6	薬剤や治療法はわからない	27	13.0	13.0
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) Q1-25. 塩酸モルヒネ中毒による呼吸抑制 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
-----	------	----	-------	-------

1	フルマゼニル(アネキセート)静注	29	13.9	13.9
2	ナロクソン静注	127	61.1	61.1
3	ドキサプラム(ドプラム)静注	3	1.4	1.4
4	ミダゾラム静注	4	1.9	1.9
5	ペンタゾシン(ソセゴン)静注	3	1.4	1.4
6	薬剤や治療法はわからない	42	20.2	20.2
	NA	0	0.0	
	サンプル数(% [^] -ス)	208	100.0	208

(SA) Q1-26. 高血圧・頻脈を伴う急性大動脈解離(Stanford typeB) (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ニフェジピン舌下	17	8.2	8.2
2	ニカルジピン静注	106	51.0	51.0
3	プロプラノロール静注	40	19.2	19.2
4	ドブタミン静注	0	0.0	0.0
5	ドパミン静注	3	1.4	1.4
6	薬剤や治療法はわからない	42	20.2	20.2
	NA	0	0.0	
	サンプル数(% [^] -ス)	208	100.0	208

(SA) Q2-1. 日中の一次救急(直接来院した、診断がついていない急患への対応) (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ほとんどすべての患者に応急的な対応ができる	90	43.3	43.3
2	半分以上の患者に応急的な対応ができる	72	34.6	34.6
3	一部の患者に応急的な対応ができる	34	16.3	16.3
4	ほとんど対応できない	12	5.8	5.8
	NA	0	0.0	
	サンプル数(% [^] -ス)	208	100.0	208

(SA) Q2-2. 日中の二次救急(救急車で搬送された、診断がついていない急患への対応) (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ほとんどすべての患者に応急的な対応ができる	45	21.6	21.6
2	半分以上の患者に応急的な対応ができる	94	45.2	45.2
3	一部の患者に応急的な対応ができる	49	23.6	23.6
4	ほとんど対応できない	20	9.6	9.6
	NA	0	0.0	
	サンプル数(% [^] -ス)	208	100.0	208

(SA) Q2-3. 夜間の一次救急(直接来院した、診断がついていない急患への対応) (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ほとんどすべての患者に応急的な対応ができる	73	35.1	35.1
2	半分以上の患者に応急的な対応ができる	84	40.4	40.4
3	一部の患者に応急的な対応ができる	33	15.9	15.9
4	ほとんど対応できない	18	8.7	8.7
	NA	0	0.0	
	サンプル数(% [^] -ス)	208	100.0	208

(SA) Q2-4. 夜間の二次救急(救急車で搬送された、診断がついていない急患への対応) (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ほとんどすべての患者に応急的な対応ができる	39	18.8	18.8
2	半分以上の患者に応急的な対応ができる	91	43.8	43.8
3	一部の患者に応急的な対応ができる	54	26.0	26.0

4	ほとんど対応できない	24	11.5	11.5
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) F1. 性別 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	男性	169	81.3	81.3
2	女性	39	18.8	18.8
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(数量) F2. 年齢:歳 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	20代	46	22.1	22.1
2	30代	162	77.9	77.9
3	40代	0	0.0	0.0
4	50代	0	0.0	0.0
5	60代以上	0	0.0	0.0
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(数量) F4. 卒後年数:現在/年目 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	卒後4年未満	0	0.0	0.0
2	卒後4年	23	11.1	11.1
3	卒後5年	43	20.7	20.7
4	卒後6年	37	17.8	17.8
5	卒後7年	42	20.2	20.2
6	卒後8年	36	17.3	17.3
7	卒後9年	27	13.0	13.0
8	卒後10年以上	0	0.0	0.0
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(数量) F5. 当直回数:月に/回 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	0回	16	7.7	7.7
2	1-5回	142	68.3	68.3
3	6-10回	46	22.1	22.1
4	11-15回	4	1.9	1.9
5	16-20回	0	0.0	0.0
6	21-25回	0	0.0	0.0
7	26回以上	0	0.0	0.0
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(数量) F6. 一般救急:月に/回 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	0回	47	22.6	22.6
2	1-5回	119	57.2	57.2
3	6-10回	31	14.9	14.9
4	11-15回	7	3.4	3.4
5	16-20回	4	1.9	1.9
6	21-25回	0	0.0	0.0

7	26回以上	0	0.0	0.0
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) F7. 現在の勤務形態 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	公的病院	69	33.2	33.2
2	民間病院	67	32.2	32.2
3	大学病院	69	33.2	33.2
4	開業	3	1.4	1.4
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) F8. 2004年4月から必須化された卒後2年間の新臨床研修制度の修了有無 (n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	修了した	103	49.5	49.5
2	していない	105	50.5	50.5
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) F10. 研修プログラムを管理していた病院の所在地 (n=103)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	北海道	1	1.0	1.0
2	青森県	0	0.0	0.0
3	岩手県	1	1.0	1.0
4	宮城県	0	0.0	0.0
5	秋田県	2	1.9	1.9
6	山形県	2	1.9	1.9
7	福島県	0	0.0	0.0
8	茨城県	0	0.0	0.0
9	栃木県	1	1.0	1.0
10	群馬県	2	1.9	1.9
11	埼玉県	2	1.9	1.9
12	千葉県	5	4.9	4.9
13	東京都	19	18.4	18.4
14	神奈川県	12	11.7	11.7
15	新潟県	0	0.0	0.0
16	富山県	4	3.9	3.9
17	石川県	4	3.9	3.9
18	福井県	0	0.0	0.0
19	山梨県	0	0.0	0.0
20	長野県	2	1.9	1.9
21	岐阜県	1	1.0	1.0
22	静岡県	1	1.0	1.0
23	愛知県	4	3.9	3.9
24	三重県	1	1.0	1.0
25	滋賀県	1	1.0	1.0
26	京都府	4	3.9	3.9
27	大阪府	10	9.7	9.7
28	兵庫県	9	8.7	8.7
29	奈良県	1	1.0	1.0
30	和歌山県	0	0.0	0.0
31	鳥取県	0	0.0	0.0
32	島根県	0	0.0	0.0

33	岡山県	1	1.0	1.0
34	広島県	1	1.0	1.0
35	山口県	2	1.9	1.9
36	徳島県	0	0.0	0.0
37	香川県	0	0.0	0.0
38	愛媛県	2	1.9	1.9
39	高知県	0	0.0	0.0
40	福岡県	2	1.9	1.9
41	佐賀県	0	0.0	0.0
42	長崎県	2	1.9	1.9
43	熊本県	1	1.0	1.0
44	大分県	3	2.9	2.9
45	宮崎県	0	0.0	0.0
46	鹿児島県	0	0.0	0.0
47	沖縄県	0	0.0	0.0
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	103	100.0	103

(SA) F11. 研修プログラムを管理していた病院の規模(病床数) (n=103)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	100床未満	0	0.0	0.0
2	100床以上 300床未満	8	7.8	7.8
3	300床以上 500床未満	24	23.3	23.3
4	500床以上 700床未満	36	35.0	35.0
5	700床以上 900床未満	10	9.7	9.7
6	900床以上	25	24.3	24.3
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	103	100.0	103

(SA) F12. 研修プログラムを管理した病院が属する市町村区の規模(人口) (n=103)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1万人未満	1	1.0	1.0
2	1万人以上 5万人未満	5	4.9	4.9
3	5万人以上 10万人未満	9	8.7	8.7
4	10万人以上 50万人未満	45	43.7	43.7
5	50万人以上 100万人未満	43	41.7	41.7
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	103	100.0	103

(SA) F13. 現在専門としている診療科を下記の中からお答えください。(n=208)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	内科	37	17.8	17.8
2	心療内科	0	0.0	0.0
3	呼吸器科	4	1.9	1.9
4	消化器科	17	8.2	8.2
5	循環器科	11	5.3	5.3
6	アレルギー科	0	0.0	0.0
7	リウマチ科	2	1.0	1.0
8	小児科	15	7.2	7.2
9	精神科	15	7.2	7.2
10	神経内科	6	2.9	2.9
11	外科	18	8.7	8.7
12	整形外科	17	8.2	8.2
13	形成外科	2	1.0	1.0

14	美容外科	0	0.0	0.0
15	脳神経外科	4	1.9	1.9
16	呼吸器外科	0	0.0	0.0
17	心臓血管外科	0	0.0	0.0
18	小児外科	0	0.0	0.0
19	産婦人科	0	0.0	0.0
20	眼科	14	6.7	6.7
21	耳鼻咽喉科	6	2.9	2.9
22	皮膚科	7	3.4	3.4
23	泌尿器科	4	1.9	1.9
24	リハビリテーション(理学療法)科	2	1.0	1.0
25	放射線科	8	3.8	3.8
26	麻酔科	8	3.8	3.8
27	救命救急	3	1.4	1.4
28	総合診療科	4	1.9	1.9
29	病理	0	0.0	0.0
30	緩和ケア部門	0	0.0	0.0
31	医療行政職	0	0.0	0.0
32	基礎系	1	0.5	0.5
33	その他	3	1.4	1.4
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

(SA) 卒後年数(現在卒後/年目の項目 (n=208))

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	卒後 4-6 年	103	49.5	49.5
2	卒後 7-9 年	105	50.5	50.5
	NA	0	0.0	
	サンプル数(%ベース)	208	100.0	208

Q1-1. ベータ刺激剤ネブライザーで軽快していない気管支喘息発作

%

	n	テオフィリン静注	エピネフリン静注	メチルプレドニゾン静注	ロイコトリエン阻害薬経口	インデラル静注	薬剤や治療はわからない
全体	208	30.3	4.3	59.1	0.5	-	5.8
卒後 4-6年	103	22.3	4.9	69.9	1.0	-	1.9
卒後 7-9年	105	38.1	3.8	48.6	-	-	9.5

Q1-2. 発作性心房細動をきたしたWPW症候群

%

	n	ジゴキシン静注	一時的対外式ペーシング	ワソラン静注	プロプラノロール静注	ジソピラミド静注	薬剤や治療はわからない
全体	208	9.6	5.3	29.3	1.9	22.1	31.7
卒後 4-6年	103	7.8	9.7	34.0	2.9	18.4	27.2
卒後 7-9年	105	11.4	1.0	24.8	1.0	25.7	36.2

Q1-3. 活動性出血を伴う胃十二指腸潰瘍

%

	n	ファモチジン静注	トランサミン静注	アスピリン経口	オメプラゾール静注	ピレンゼピン静注	薬剤や治療はわからない
全体	208	14.9	14.4	-	58.2	1.0	11.5
卒後 4-6年	103	9.7	14.6	-	68.9	1.0	5.8
卒後 7-9年	105	20.0	14.3	-	47.6	1.0	17.1

Q1-4. 尿中肺炎球菌抗原検査陽性の市中肺炎
%

	n	セフトリアキソン静注	メロペネム静注	バンコマイシン静注	オセルタミビル経口	トブラマイシン静注	薬剤や治療はわからない
全体	208	67.3	13.9	1.0	0.5	1.0	16.3
卒後 4-6年	103	76.7	10.7	1.9	1.0	1.0	8.7
卒後 7-9年	105	58.1	17.1	-	-	1.0	23.8

Q1-5. 良性発作性頭位めまい症
%

	n	重炭酸ナトリウム(メイロン)静注	エピネフリン静注	ジフェンヒドラミン筋注	アデノシン三リン酸二ナトリウム(ATP製剤)経口	グリセロール静注	薬剤や治療はわからない
全体	208	79.8	0.5	2.9	9.6	1.0	6.3
卒後 4-6年	103	82.5	-	3.9	10.7	-	2.9
卒後 7-9年	105	77.1	1.0	1.9	8.6	1.9	9.5

Q1-6. 脱水(腎前性腎不全)による乏尿を呈する熱傷
%

	n	ヒトアルブミン製剤静注	ヘタスターチ(ヘスパンダー)静注	乳酸加リンゲル液静注	新鮮凍結血漿輸血	フロセミド静注	薬剤や治療はわからない
全体	208	4.3	6.3	76.9	0.5	0.5	11.5
卒後 4-6年	103	2.9	9.7	81.6	-	1.0	4.9
卒後 7-9年	105	5.7	2.9	72.4	1.0	-	18.1

Q1-7. ウイルス性急性上
気道炎
%

	n	アセト アミノ フェン 経口	アシ クロビ ル静 注	ノル フロキ サシ ン経 口	プレ ド ニゾ ロン 経口	クリ ン ダ マ イ シ ン 経 口	薬剤 や治 療法 はわ から ない
全体	208	74.0	2.4	5.3	0.5	4.3	13.5
卒後 4-6 年	103	80.6	1.9	1.9	-	3.9	11.7
卒後 7-9 年	105	67.6	2.9	8.6	1.0	4.8	15.2

Q1-8. ベンゾジアゼピン系薬大量服用後6時間後に搬送された急性薬物中毒
による深昏迷
%

	n	プラ リ ド キ シ ム (PA M)静 注	透析 療法	胃洗 浄	気管 挿管	ミダ ゾ ラ ム 静 注	薬剤 や治 療法 はわ から ない
全体	208	3.8	5.8	21.2	52.4	3.4	13.5
卒後 4-6 年	103	2.9	4.9	16.5	56.3	4.9	14.6
卒後 7-9 年	105	4.8	6.7	25.7	48.6	1.9	12.4

Q1-9. ジアゼパム静注でコントロールできないけいれん重積
発作
%

	n	メロ ペ ネ ム 静 注	フェ ニ ト イ ン 静 注	フェ ノ バ ル ビ タ ー ル 筋 注	パン ク ロ ニ ウ ム 静 注	ベク ロ ニ ウ ム 静 注	薬剤 や治 療法 はわ から ない
全体	208	-	43.3	31.3	3.4	4.8	17.3
卒後 4-6 年	103	-	41.7	35.0	1.9	4.9	16.5
卒後 7-9 年	105	-	44.8	27.6	4.8	4.8	18.1

Q1-10. 蜂アレルギーによるアナフィラキシーショック

%

	n	クロルフェニラミン静注	ニフェジピン経口	強力ネオミノファーゲンC静注	エピネフリン筋注	局所ステロイド軟膏	薬剤や治療法はわからない
全体	208	1.0	1.4	3.8	89.9	1.0	2.9
卒後 4-6年	103	1.0	-	2.9	94.2	1.0	1.0
卒後 7-9年	105	1.0	2.9	4.8	85.7	1.0	4.8

Q1-11. 急性左心不全を伴う高血圧

%

	n	ジルチアゼム静注	ドパミン静注	ニトログリセリン静注	ニフェジピン舌下	ドブタミン静注	薬剤や治療法はわからない
全体	208	13.5	6.3	41.3	4.8	7.2	26.9
卒後 4-6年	103	13.6	4.9	42.7	4.9	9.7	24.3
卒後 7-9年	105	13.3	7.6	40.0	4.8	4.8	29.5

Q1-12. 市中発症の発熱・下痢を呈する細菌性腸炎

%

	n	フォスフォマイシン静注	クリンダマイシン静注	バンコマイシン経口	シプロフロキサシン経口	センノシド経口	薬剤や治療法はわからない
全体	208	30.3	7.2	1.4	42.8	0.5	17.8
卒後 4-6年	103	33.0	6.8	2.9	43.7	1.0	12.6
卒後 7-9年	105	27.6	7.6	-	41.9	-	22.9

Q1-13. ベル麻痺

%

	n	プレドニゾン 経口	グリセロール 静注	バラシクロピ ル経口	混合 ガス (酸素 +2 酸化 炭素) 吸入	アシ クロ ビル 経口	薬剤 や治 療法 はわ から ない
全体	208	54.8	2.9	1.0	-	10.6	30.8
卒後 4-6 年	103	55.3	3.9	-	-	15.5	25.2
卒後 7-9 年	105	54.3	1.9	1.9	-	5.7	36.2

Q1-14. 肺塞栓症を伴わない急性深部静脈
血栓症

%

	n	トラン サミ ン静 注	アス ピリン 経口	ヘパ リン 静注	弾性 ストッ キング 装着	tPA 静注	薬剤 や治 療法 はわ から ない
全体	208	1.9	8.7	63.0	9.1	5.8	11.5
卒後 4-6 年	103	1.0	5.8	70.9	11.7	3.9	6.8
卒後 7-9 年	105	2.9	11.4	55.2	6.7	7.6	16.2

Q1-15. 慢性腎不全(Cr3.0mg/dl)を伴う急性痛風発
作

%

	n	ロキ ソニ ン経 口	アロ プリ ノ ール 経口	ユリ ノ ーム 経口	プレ ド ニ ゾ ン 経口	モル ヒネ 静注	薬剤 や治 療法 はわ から ない
全体	208	30.8	12.5	5.3	15.4	7.2	28.8
卒後 4-6 年	103	29.1	15.5	6.8	10.7	10.7	27.2
卒後 7-9 年	105	32.4	9.5	3.8	20.0	3.8	30.5

Q1-16. 無脈性電気活動 Pulseless electrical activity(PEA)

%

	n	電氣的除細動	フロセミド静注	同期下カルデジオバージョン	エピネフリン静注	ドブタミン静注	薬剤や治療法はわからない
全体	208	14.4	1.0	3.4	63.0	-	18.3
卒後 4-6 年	103	10.7	-	4.9	74.8	-	9.7
卒後 7-9 年	105	18.1	1.9	1.9	51.4	-	26.7

Q1-17. 癒着性小腸閉塞による嘔吐

吐

%

	n	経鼻胃管の留置	スコポラミン(ブスコパン)静注	メクロプロラミド(プリンペラン)静注	ペンタゾシン(ソセゴン)静注	モルヒネ静注	薬剤や治療法はわからない
全体	208	76.9	6.7	2.4	1.0	0.5	12.5
卒後 4-6 年	103	84.5	7.8	1.9	-	-	5.8
卒後 7-9 年	105	69.5	5.7	2.9	1.9	1.0	19.0

Q1-18. 免疫不全疾患の無い若年者における急性ウイルス性脳炎

%

	n	リファンピリン経口	グリセオール静注	セフトリアキソン静注	アシクロビル静注	オセルタミビル経口	薬剤や治療法はわからない
全体	208	-	22.1	1.4	52.9	0.5	23.1
卒後 4-6 年	103	-	25.2	1.9	59.2	1.0	12.6
卒後 7-9 年	105	-	19.0	1.0	46.7	-	33.3

Q1-19. 急性心筋梗塞に伴う無脈性心室頻拍
%

	n	電氣的除細動	ドブタミン静注	同期下カルディオバージョン	エピネフリン静注	塩酸リドカイン静注	薬剤や治療法はわからない
全体	208	56.3	0.5	10.1	6.3	8.7	18.3
卒後 4-6年	103	57.3	-	12.6	8.7	8.7	12.6
卒後 7-9年	105	55.2	1.0	7.6	3.8	8.6	23.8

Q1-20. 透析患者における高カリウム血症(7.0mEq/L)で徐脈(50/min)
%

	n	硫酸アトロピン静注	ノルアドレナリン静注	グルコン酸カルシウム(カルチコール)静注	フロセミド静注	イソプロテレノール静注	薬剤や治療法はわからない
全体	208	5.3	1.0	68.8	3.8	1.0	20.2
卒後 4-6年	103	4.9	-	74.8	4.9	1.0	14.6
卒後 7-9年	105	5.7	1.9	62.9	2.9	1.0	25.7

Q1-21. 基礎疾患の無い若い女性における初回の急性膀胱炎
%

	n	アモキシリン経口	セフカペン(フロモックス)経口	Fosfoマイシン静注	メロペネム静注	バンコマイシン静注	薬剤や治療法はわからない
全体	208	26.0	63.9	1.4	1.9	0.5	6.3
卒後 4-6年	103	28.2	68.9	1.0	-	-	1.9
卒後 7-9年	105	23.8	59.0	1.9	3.8	1.0	10.5